

令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業 成果報告(概要版)



陸上競技



バスケットボール

青森県教育委員会



サッカー



フライングディスク

【青森県特別支援教育推進ビジョン（H31.2）】

「障害のある児童生徒が、地域社会において、生涯を通じて教育やスポーツ、文化活動等に親しむことができるようにするため、地域人材を活用し、地域における活動を充実させるとともに、特別支援学校間のスポーツ・文化活動による交流を行い、生涯学習の基盤づくりに努める。」

【本県の県立特別支援学校の現状】

授業に障害者スポーツを積極的に取り入れるなどスポーツの機会を積極的に設けている

学校外に出ると…

時間軸・空間軸ともにスポーツをする機会が限られている

生活年齢が上がるにつれて…

積極的にスポーツに取り組む者とそうでない者に二極化する傾向

卒業後…スポーツに積極的に取り組む者はごく一部である

地域のスポーツ活動への参加及び
生涯学習の基盤づくりが必要

障害者にとってのスポーツとは…

心身の健康や体力の向上だけではなく…



- ・生活能力の向上
- ・個々の自己決定力、問題解決能力を身に付ける、引き出す



自立と社会参加



本事業は、障害者の継続的なスポーツの実施促進に向けて、本県における課題に対応して、(1) 障害者スポーツの振興体制の強化、
(2) 身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図るとともに、
(3) より広く障害者が参加できるスポーツ大会を開催することを
目的とする。（令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業実施要項）

令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業

(1)

青森県特別支援学校スポーツ推進委員会

県立特別支援学校に在籍している児童生徒がそれぞれの形でスポーツに親しむために学校でできることや各特別支援学校が所在する地域のスポーツ施設等を含む関係機関との連携の在り方について検討する。また、青森県特別支援学校スポーツ連盟総合スポーツ大会に係る指導・助言を行う。

構成：学識経験者、スポーツ振興団体、関係部局、特別支援学校関係者等

指導・助言

特別支援学校に在籍する児童生徒の

指導・助言

(2)

各県立特別支援学校の取組

県内の人材、地域のスポーツ施設等を活用したスポーツ体験活動を実施する。

- ・地域の人財、スポーツ施設を活用したスポーツ体験
- ・他校種、地域とのスポーツ交流（オンライン交流を含む）
- ・障害者スポーツ体験等

連携

総合型地域スポーツクラブ

卒業後の スポーツ活動の充実

スポーツを通じた 生涯学習の 基盤づくり

指導・成果
の発表

(3)

青森県特別支援学校スポーツ連盟 第1回総合スポーツ大会

県内16校の特別支援学校が参加するスポーツ大会を開催する。

日時 令和3年9月28日(火)

場所 新青森県総合運動公園
各県立特別支援学校

種目 ボッチャ、フライングディスク、陸上
バスケットボール、バレーボール、サッカー

運営ボランティア

高等学校生徒・大学生等



〈 期待・想定した効果 〉

【自校におけるスポーツを通じた生涯学習の基盤づくり】



- ◆ 卒業後も継続してスポーツに親しむためのきっかけとなるのではないか。
- ◆ コミュニケーション力の向上につながるのではないか。
- ◆ 競技に関心をもち、「プレイする」・「応援する」・「観戦する」など、一人一人に合った形でのスポーツへの親しみ方を見つけることができるのではないか。
- ◆ 社会性の向上や豊かな人間性を育むことにつながるのではないか。
- ◆ スポーツに親しみながら健康的に生活する態度の育成につながるのではないか。

【地域のスポーツクラブ等の地域資源との連携・協力】

- ◆ 地域スポーツとの出会いとなり、地域のスポーツクラブ等への参加意欲が高まるのではないか。
- ◆ 余暇の充実や生活にスポーツを取り入れようとする意欲の育成につながるのではないか。
- ◆ 地域の活性化につながるのではないか。
- ◆ 地域の方々の健康と生きがいにつながり、生涯スポーツの推進につながるのではないか。

【教員への効果】

- ◆ 障害者が体を動かすことに関する教員の専門性の向上が図られるのではないか。



【各特別支援学校における取組】

✓ 卒業生が中心となって活動しているクラブとの連携

・フロアバレーボール (視覚)

- 「試合に勝つ」という明確な目標ができ、研修内容の工夫につながった。
- 卒業後のスポーツに親しみながらの生活を具体的にイメージでき、生涯を通じてスポーツを楽しむことができることに気付いた。

✓ 地域のスポーツ資源の活用

・少林寺拳法 (聴覚) ・卓球 (聴覚、知的) ・エアロビクス (知的)

・サッカー (知的) ・バレーボール (知的) ・健康トレーニング (病弱)

- 上達するために自主的に練習するようになった。
- 体を動かすことの楽しさや爽快感を味わうことができ、体を動かすことの知識を深めるとともに意欲の向上にもつながった。
- 「○○が楽しい。」「もっとやりたい。」などといった意欲の向上がうかがえる感想が見られた。

✓ 障害者スポーツ競技

・ボッチャ (知的、肢体) ・フライングディスク (知的・肢体)

- ルールの理解が深まり、技術的な向上が見られた。
- 成功を喜び合ったり、友達を応援したりするなど、友達の良さを認め合えるようになってきた。
- 次回頑張りたいことや取り組みたいことを文章にするなど、学んだことを生かして具体的な技術の向上を目標にしようとする感想がみられた。



【主な連携機関】

- | | |
|-------------------------|----|
| ✓ 地域のスポーツクラブとの連携 | 7校 |
| ✓ 地域の福祉機関との連携 | 4校 |
| ✓ 地域の小・中学校・高等学校の部活動との連携 | 3校 |
| ✓ 地域の他の特別支援学校との連携 | 3校 |
| ✓ 地域の町内会・老人会等との連携 | 3校 |
| ✓ その他 | 5校 |

〈 A 特別支援学校 〉

児童生徒がスポーツを通して地域と関わっていくためのきっかけとなった。

〈 B 特別支援学校 〉

授業においてスポーツクラブについて調べたことで、生徒によっては、自宅からの距離や交通手段について考えたり話題にしたりする様子がみられた。

令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業



「光の方へ」

県立弘前第一養護学校高等部生徒作品
(第1回総合スポーツ大会ポスター原画)

【特別支援学校第1回総合スポーツ大会】

✓ 当日オンライン参加生徒数 115名
チャレンジ競技参加生徒数 890名

※期間を決めて記録を測定し、記録に応じて級を認定する競技



〈オンライン競技〉

- ・ボッチャ
- ・フライングディスク
- ・バレーボール(新ルール)

〈チャレンジ競技〉

- ・ボッチャ
- ・フライングディスク
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・サッカー
- ・陸上競技



バレーボール



・オンラインで実施。6人対6人
・画面の相手がサーブを打ち、そのボールを相手コートに投げ入れ、レシーブ・トス・スパイクの三段攻撃をする。



フライングディスク



ボッチャ



【特別支援学校スポーツ推進委員会】

推進委員会委員

大学准教授・県障害者スポーツ協会・県障害者スポーツ指導員会・県スポーツ協会
県高等学校体育連盟・**県特別支援学級通級指導教室設置校長協議会**
関係部署(県健康福祉部障害福祉課・県教育庁生涯学習課・**県教育庁スポーツ健康課**)
県特別支援学校校長会・特別支援学校**5障害種**学校長
弘前大学教育学部附属特別支援学校長

総合型地域
スポーツクラブ担当者

これまでの3年間の取組で、特別支援学校の児童生徒は、スポーツに関わることで、スポーツ技術の向上だけではなく、スポーツを通じて「コミュニケーションの向上」や「自信がついた」など成長が見られ、充実してきた。今後は、**学校の活動をどのように地域での活動につなげていくのかが課題**である。

総合型地域スポーツクラブとの連携・協力

推進委員会

第1回推進委員会：令和3年6月25日(金)

- 県特別支援学校第1回総合スポーツ大会について
- 特別支援学校における生涯スポーツの推進に向けて

総合型地域スポーツ
クラブの活動状況の共有

第2回推進委員会：令和3年12月17日(金)

- 県特別支援学校第1回総合スポーツ大会 結果報告
- 特別支援学校における生涯スポーツの推進に向けて

各機関の連携の必要性
と連携の考え方の共有

【今後に向けて…学校としてできること…】

○学校におけるスポーツ活動の継続

- ・スポーツに親しむ、体を楽しく動かす機会を今後も継続的にしていく。
- ・小学部の早い時期からのスポーツに親しむ環境づくりに努める。
- ・児童生徒一人一人に合ったスポーツへの親しみ方を構築し、総合スポーツ大会への参加や将来のアスリートの育成につなげる。

○地域への発信

学校での取組を校内だけで終わらせるのではなく、広く地域に発信するとともに、学校ができることは何か、地域にはどのような資源があり、どうつなげていくのかについて各校で検討する。

健康的な生活、余暇の充実といった
将来の生活の質の向上